

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between preconception dietary fiber intake and hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠前の食物繊維摂取量と妊娠高血圧症候群の関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Pregnancy Hypertension: An International Journal of Women's Cardiovascular Health

年: 2024 DOI: 10.1016/j.preghy.2024.101139

筆頭著者名: 小元 敬大

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本研究では、妊娠前の食物繊維摂取量と妊娠高血圧症候群の発症の関連について検討することを目的としました。

方法:

エコチル調査の参加者のうち、高血圧と診断されていない妊婦を対象としました。食事調査票から算出された妊娠前から妊娠初期にかけての食物繊維摂取量に応じて参加者を5グループに分類しました。出産が初めての人(初産婦)と出産経験がある人(経産婦)それぞれのグループで、食物繊維摂取量に応じた妊娠高血圧症候群の発症リスクを比較しました。解析時に、妊婦の年齢や体格、喫煙の有無、高度な不妊治療の有無、学歴や収入、妊娠前の各種栄養摂取量などといった背景因子を考慮しました。

結果:

エコチル調査の参加者のうち、84,873人が解析対象者となりました。そのうち、初産婦は33,712人、経産婦は51,161人でした。解析の結果、初産婦において、妊娠前の食物繊維摂取量に応じて分類した5群のうち中央のグループと比較して、食物繊維摂取量が最も多いグループでは妊娠高血圧症候群の発症リスクが約27%低く、食物繊維摂取量が最も少ないグループでは妊娠34週未満の妊娠高血圧症候群の発症リスクが約66%高いことがわかりました。一方、経産婦において、食物繊維摂取量が最も少ないグループでは妊娠34週以降の妊娠高血圧症候群の発症リスクが約47%高いことがわかりました。

考察(研究の限界を含める):

妊娠高血圧症候群の発症メカニズムに腸内の微生物環境が関与していると考えられています。妊娠前からの積極的な食物繊維摂取により腸内の微生物環境が良好な状態となり、妊娠高血圧症候群に関連する炎症を抑えたり、免疫を調整したりする効果があるのではないかと考えられました。本研究の限界としては、妊娠高血圧症候群の中でもより重要性が高い妊娠高血圧腎症を厳密に区別していないこと、食物繊維の摂取源など具体的な食事内容については評価していないことが挙げられます。

結論:

妊娠前からの積極的な食物繊維摂取により妊娠高血圧症候群の発症リスクが減少する可能性が示唆されました。今後、妊娠前の適切な食物繊維摂取量についてさらなる検討が必要と考えられました。